

沖縄の教育から学んだ事

沖縄県立向陽高等学校1年 花城さくら

私のふるさととは沖縄です。沖縄の教育の特徴は、毎年6月頃になると平和学習があることです。組織的な戦闘が終結した日、6月23日が「慰霊の日」と呼ばれ、戦没者を慰め平和を祈っていく日となっています。「慰霊の日」は沖縄では広く知られていますが、沖縄県外では全く知名度が無いということを最近知ってとても驚きました。「慰霊の日」が近づくとも新聞やテレビでも取り上げられて、平和について考える機会が多くなります。学校でも6月頃になると、平和学習が行われます。平和学習とは具体的に、戦争に関する映画を見たり、体験者から当時の様子を聞いたり、激戦地の壕を見学しに行くということを行います。平和学習が行われている目的として、沖縄は日本国内唯一の地上戦闘であり、その歴史を廃れさせないために行うというものでした。私は小さな頃からこの平和学習がとても苦手でした。何故なら、もう終わったことだから学ばなくても良い、昔と今は違って、昔のことと今のことを当てはめてもどうにもならないと考えていたからです。

私はとても臆病です。小学生の時に、平和学習のために戦争当時の様子を再現したアニメ映画を見ました。映画の主人公は、周りの人々が亡くなっていくのを目の当たりにしていました。もし自分に同じ様なことが起こったらと考えると怖かったので、もう平和学習は受けたくないなと思っていました。しかし、次の年にもまた平和学習が行われました。もう嫌だキツイと思い、授業を抜け出してしまいました。その次の年から平和学習のある日は休んだり、早退するようになりました。私は、どうしてこんな勉強をしなければならないのか理解が出来ませんでした。学ばなくても生きていける、と考えるようになりました。

学校を欠席や早退する私を、クラスの担任は疑問に思ったのか「なんで休むの？」と聞いてきました。私は平和学習を受けたくない、昔のことを学んでも意味がないと思うと説明しました。すると先生は、「戦争について無理に学ばなくても良い。私達が平和について考えるのは、私達の世代または次の世代で同じ過ちを繰り返させないためだよ。過去の過ちを知らなければ、また同じことを起こすかもしれないでしょう。」と。その時私は、曾祖母が教えてくれた沖縄の方言で「ぬちどう宝（命は宝だよ）」という言葉思い出しました。戦争をしてしまったことで、命を奪われてしまった人がいる、今ある命はとても大切だよと曾祖母は教えてくれました。曾祖母は戦争体験者で当時の様子を思い出すと辛くなるのか、あまり当時のことを話さなかったが、命を大切にしようね、とだけ話してくれました。しかし、曾祖母とは違って戦争当時を思い出すことが辛いにも関わらず、私達に話してくれる戦争体験者がいることを私は忘れてしまっていた、とある時気づきました。思い返すことによって辛い思いをしているのにも関わらず、戦争を体験したことによって学んだことを、私達子供達に伝えようと頑張っているのに、私はその気持ちを避けてしまっていました。今しかできない貴重な機会を自ら

手放してしまってもったいなかったなと感じました。

私はこの沖縄の教育から、平和学習は後世に同じような過ちを繰り返させないようにするためであり、命の大切さを学ぶためだと分かりました。最初は嫌だと思っていたことも今しかで出来ない貴重な経験で、とても大切なことだと気づくことができました。

これからは平和学習を避けないで、これからも平和を保ち続けるために行うのだという意図を忘れずに平和学習を続けていきたいです。また、私の曾祖母が教えてくれた「ぬちどう宝（命は宝だよ）」を胸に留め続け、今日という日を過ごすことができていることに感謝していきたいです。このような地域の歴史教育を行ってくれることはとても大切です。平和な世の中は誰かにつくってもらうのではなく、自分たちでつくっていくのだと教えられていたので、私はこの沖縄の教育にとっても感謝しています。嫌だと思いう事があってもちゃんと向き合う為に教育、人と人の繋がりはあるのだと思いました。これからも、沖縄でしか学べない様々なことを勉強し、体験し今後に繋げて行けたらと思っています。